

# よく自分を知ること。 それが自分に課せられた天の使命であ

合気は、この世の大和魂の練成であります。

私は、この日本の家族の一人として、また世界の家族の一人として皆様に御話し申します。

これからは世界はひとつに和合していかなければなりません、ことに日本の国は、現在まだまた迷っております。

大いに動揺しております。こういった状態から一刻も早く、ひとつの家族のようになって、精神的結びによって和合していかななくてはなりません。

それにわまず日本から出直して行かなければなりません。

まず自分という者を修行しそして一家を整えなければいけません、一家をととのえ次に一国を整え、遂に宇宙をも和合させなければなりません。

顕幽神、三界を和合し、まもっていかなければならない、これが合気道の使命であります。

わが国には昔の話に三種の神器というものがありません。

御剣・御鏡・御玉、これは剣とか鏡そのものをいうのでなく、智、仁、勇という人として欠くことの出来ない心の宝を指してかくいうのであります。

合気道は、この古の神器の姿を、皆自分の腹中に胎蔵して修行して行かなければならぬことをおしえます。

この道すなわち神代からの歴史をよく見て、自分で悟らねばなりません。

悟るということは、自分にあるので、自分の腹中をよく眺め、自分というものは、どこから出手北ものであるか、また自分は何事をなすべきか、よく自分を知ると、ということが自分に課せられた天の使命であります。

そして我々が過去を振り返って見て、皆さんが喜んでる姿を見たら、これほど幸福なことはしないと思えます。

この世の明るい世界は、一元の神の営みの全徳のあらわれであります。我々もこの中に入っている、この営みの世界に、この歴史この生命線は絶え間なく、昔よりこの究極に至って造られているということを思わねばなりません。

自分というものをよく知ること、これが大切であります。

今、私がやっております合気道とは、人をこさえる道、心身鍛練の道であります。人をなぐったり、邪険をふりまわして人を殺す道ではありません。

これをよく皆さまもお考え下さるようお願い申し上げます。

昭和35年6月

合気道開祖植芝盛平翁講和より